

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成16年9月13日(月)5校時
場 所 大槌町立安渡小学校 視聴覚室
学 級 4年生 (男13名,女15名)
指導者 小 石 敦 子

- 1 単元名 わたしたちの体について調べよう
教材名 『体を守る仕組み』 『これが「わたし」です』

2 単元について

(1) 児童観

今年の4月に実施したNRTの学力検査では、国語の「読むこと」は全国正答率が58.6%に対して、学年正答率は58.8%と全国比は100であった。特徴として、男女差が大きく、男子が51.8%に対して女子が64.3%の正答率であった。説明文の読み取りにおいては、「中心をおさえて読むこと」「叙述内容に即して読むこと」を苦手としている児童が男子の方に多く見受けられた。

そこで、1学期の説明文の学習では、「ツバメがすむ町」の教材文を通して、「中心をおさえて段落を正しく読み取ること」に重点を絞って授業を進めた。ワークシートを活用し、段落毎に重要語句をおさえながら要点をまとめる学習を行った結果、中心をおさえた読みや重要語句に着目した読みが少しずつできるようになってきた。また、教材文を学習した後、ツバメのフィールドワークを行い、その結果を新聞にまとめる作業を行ったが、新聞には、「この・その・これ」といった指示語や教材文に何度も出てきた「調査・結果」といった語句、「～からです・～のようです」といった文末表現など、重要語句のおさえを生かしたまとめ方が多く見られた。

しかし、その一方で、指示語の意味や要点のまとめ方、段落相互の関係の理解が十分でない児童も少なくない。また、接続語については、あまり使い慣れていないことが作成した新聞や日頃の文章表現などで見られた。

本単元においては、1学期の説明文の学習を受けて、接続語を中心に、指示語や文末表現、繰り返し語句といった言葉のおさを大切にしながら段落をまとめ、段落相互の関係を考えて文章を正しく読むことにさらに力を入れていきたいと考える。

(2) 教材観

第3学年及び第4学年の「読むこと」の指導目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにする」である。また、本教材の指導事項は「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと」である。

3年時の「ありの行列」では、段落について学習し、1学期の「ツバメがすむ町」では、さらに段落と段落のつながりという文章構成について学習してきた。本教材では、段落のつながり方を考える接続語に焦点を当てながら、各段落の要点や段落相互の関係をつかみ、書かれている内容を正確に読み取る力を身につけさせていきたい。

本教材の「体を守る仕組み」は、大きく三つのまとまりで書かれている。はじめのまとまり(～段落)では、話題・問題提示の部分として、病気の原因になる微生物の特徴を示している。次のまとまりでは、問題を解決・説明する部分として、体の外側(～段落)と内側(～段落)の二つに分けて事例を挙げ、体を守る仕組みを述べている。最後のまとまり(段落)は、まとめの部分として、体を守る仕組みの素晴らしさと筆者の思いが込められたものとなっている。

本教材は、「さあ、深きゆうをしてみましょう。」という読者への呼びかけの書き出しで始まり、「今、何をすいこみましたか。」という問いかけが続くといった語りかけるような

書きぶりで、児童にとって生活体験に沿った親しみやすい教材となっている。また、微生物や皮ふ、なみだ、せん毛、白血球といった中心語句は見つけやすく、これらの語句や接続語などを手がかりとしながら、各段落の要点や段落相互の関係を考えさせていきたい。

(3) 指導観

学習指導要領にもあるように、児童が目的意識や必要感をもち、必然的に児童が中心を考えたり発見したりできる学習を工夫していかないと、受け身的な学習になり、説明文の読み取りに対しての苦手意識がますます強くなってしまおうと思われる。

そこで、まず、単元の「つかむ」段階において、「体を守る仕組み」の次教材「これが、わたしです」についてを先に説明する。つまり、「自分の体の仕組みを知り、等身大の体の図を作って作品発表会をしよう」を掲げてから「体を守る仕組み」の教材に入る。自分たちの体の仕組みを知るといった知的好奇心や等身大の体の図を作るというおもしろさといった興味・関心など、説明文教材で学んだことが作品発表会につながるという目的意識を持たせたいと考える。等身大の体の図は、はじめに作って掲示しておき、教材文を学習したあとに、体の仕組みの説明カードを貼る活動を行う。

また、「つかむ」段階では、初めて知ったことやもっと知りたいこと、よく分からないことなどの初読の感想を書かせ、学習課題をおさえる。

「深める」段階においては、感想で出された学習課題をもとにしながら、接続語を中心に、重要語句をおさえながら段落の要点や段落相互の関係をとらえていきたい。一単位時間の中に、毎時間「一人学び」の時間と重要語句を取り上げて学ぶ「今日のキーワード」のコーナーを位置付ける。そうすることにより、児童に学習の流れをつかませるとともに、考える場を設定したり、キーワードを意識させたりすることで、正しく読む力が身についていくのではないかと考える。

書く活動では、全文視写をしたノートを使う。視写することで、言葉の使い方を覚え、授業での書き込みが容易にできるからである。また、書き込みをしながら言葉の持つ表現のおもしろさについても感じ取らせていきたい。自己評価カードは一覧表にしてノートに貼り、一時間毎に評価し、その評価を指導に生かしていく。

「深める」段階の最後には、「体を守る仕組み」の学習を終えて、分かったことやまだよく分からないこと、もっと知りたいことなど、「つかむ」段階での感想を振り返りながら感想を書く。そして、まだよく分からないことやもっと知りたいことを参考図書やインターネットで調べていく「広げる段階」の学習「これが、わたしです」につなげていく。

3 単元目標

- (1) 体の仕組みについて興味を持ち、進んで読んだり書いたりしようとしている。
(関心・意欲・態度)
- (2) 体について調べて分かった事柄について、中心を考えながら書くことができる。
(書くこと)
- (3) 段落相互の関係をとらえ、中心となる語や文を落とさずに読み取ることができる。
(読むこと)
- (4) 内容の中心をとらえて要点を書くことができる。
(読むこと)
- (5) 段落相互の関係を示す接続語について理解することができる。
(言語事項)

4 単元の指導と評価規準(6時間扱い)

別紙参照

5 本時の指導 (4 / 6)

(1) 授業の構想

「一人学び」や「今日のキーワード」の場の設定を取り入れながら、接続語をはじめ、重要語句のおさえをていねいに行うことにより、正しく読む力をつけさせたい。

(2) 目 標 (本時のねらい)

第5段落から第8段落を、接続語に気を付けながら段落相互の関係をとらえ、中心となる語や文を落とさずに読み取ることができる。

(3) 展 開

一人学び

今日のキーワード

段階	学 習 活 動	・指導上の留意点 (評価) <評価方法>
み と お す 4分	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 三つの体の仕組みをまとめよう。 </div>	・指導上の留意点 (評価) <評価方法> ・第1段落から第4段落までの要点を振り返ったあと、本時は微生物から体を守る仕組みを学習することをおさえる。 ・学習課題によって、本時で何ができればいいのかを明らかにする。 学習課題がわかったか。 <観察>
ふ か め る	3 第5段落から第8段落を音読しキーワードを確認する。 ・指名読みをする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 今日のキーワード 「接続語」「体の言葉」「微生物」 </div> 4 全体の中で第5段落の要点をまとめる。 「皮ふは、微生物が体の中に入るのを防ぐ。それだけでなく、あかといっしょに微生物を落とす。」 要点のまとめ方 「何は・何を・どうする」の形を示す。	・三つの体の仕組みをまとめるためのキーワードとして「接続語」と「体に関係した言葉」「微生物」に着目すればよいことに気付かせる。 ・読みの視点として、キーワードに印を付けながら読む。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 第5段落のキーワード 「まず」「皮ふ」「微生物」 「それだけでなく」 </div> ・皮ふの働きには二つあることが「それだけでなく」のつなぎ言葉から分かることをおさえさせる。 ・主語を明確にしながらまとめさせる。 要点のまとめ方がわかったか。 <挙手>
	5 第6・第7・第8段落について一人学びを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ・第6・第7・第8段落の要点をまとめる。 ・キーワードは使っているか、働きは入っているか、主語を明確にしてまとめることができたか確かめる。 </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 第6段落のキーワード 「それから」「なみだ」「微生物」 「しかも」 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 第7段落のキーワード 「これらとともに」「せん毛」「微生物」 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 第8段落のキーワード 「このほかにも」「しかし」「微生物」 </div>

38分	<ul style="list-style-type: none"> ・第6段落の要点 「なみだは、目から入ろうとする微生物を流す。しかも、微生物を殺す働きもする。」 ・第7段落の要点 「せん毛は、鼻や口から入ってきた微生物を外へ外へとおし出す役目をする。」 ・第8段落の要点 「このほかにも仕組みはある。しかし、微生物が体の中に入り込んでくることがある。」 <p>6 第6・第7・第8段落の要点を全体場で練り合い、確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5・第6・第7段落で挙げられている「皮ふ」「なみだ」「せん毛」は、なぜこの順番に並べられているのか、段落構成にふれる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>第8段落の体の仕組みをキーワードを使って中心文や中心語句を落とさずにまとめることができたか。</p> <p style="text-align: center;"><ノート・発言></p> <p>A 指示語の表す言葉をおさえて、接続語に着目して中心文をまとめている</p> <p>B 接続語に着目して中心文をまとめている。</p> <p>Cへの支援 前の文と後の文とをつなぐ「しかし」の接続語の意味を考えさせ、後の文が中心文であることに気付かせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・第6段落では「しかも」や「も」に着目させ、働きが二つあることに気付かせる。 ・第7段落は、せん毛の働きは何か、「役目」の言葉に気付かせる。 ・第8段落では、「このほかにも」「しかし」の接続語に着目し、二つのことを述べていることをおさえる。 ・要点のまとめと合わせて、指示語や助詞「も」の使い方にもふれる。 ・特に第8段落を練り合いの中心におき、よりよいまとめ方を全体場で確認する。
振り返る 3分	<p>7 自己評価カードに評価を記入し発表する。</p> <p>8 次の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の自己評価と本時とを比べ、次時に生かすものにする。 <p>体を守る外側の仕組みについて、接続語に気を付けながら段落相互の関係をとらえ、中心となる語や文を落とさずに読み取ることができたか。</p> <p style="text-align: center;"><自己評価カード></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そんなときにそなえて」の接続語から始まる第9段落から第11段落までまとめていくことを知らせる。

6 板書計画

	(別紙)
	体を守る仕組み
	三つの体の仕組みをまとめよう。

7 自己評価カード

					学習をふり返って()月 ()日
					1 一人学びに意欲的に取り組みましたか。
				よくできた。…………… <input type="checkbox"/>	
				だいたいできた…………… <input type="checkbox"/>	
				あまりできなかった…………… <input type="checkbox"/>	
				できなかった。…………… <input type="checkbox"/>	
					2 要点のまとめかたは分かりましたか。
				よく分かった。…………… <input type="checkbox"/>	
				だいたい分かった。…………… <input type="checkbox"/>	
				あまり分からなかった。…………… <input type="checkbox"/>	
				分からなかった。…………… <input type="checkbox"/>	
					3 今日の感想

第4学年 学習カルテ(説明文)

前学年の「読む力」の実態について（H16.4月のNRTより）

- ・女子は5段階中、4段階が多いが、男子は2段階と4段階の大きく2つに分かれている。
- ・「読むこと」の落ち込みは、小領域別では「様子がよく分かるように読むこと」「叙述を基に場面を想像して読むこと」「中心をおさえて読むこと」であった。

	単元・教材名		
	ツバメがすむ町	体を守る仕組み	動く絵の不思議
指導法	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習後、実際にフィールドワークに出掛け、その後、新聞作りを行うといった一連の目的意識を持たせる。 2 インタビュー形式で、主体的な読み取りを目指す。 3 重要語句の書き込みの欄を設けたワークシートを活用することで、中心をおさえた読み取りを目指す。 4 ワークシートには自己評価や相互評価の欄を設け、指導と評価の一体化を図る 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「つかむ」段階で、次教材にもふれ、「作品発表会をする」という目的意識を持たせる。 2 「深める」段階では、毎時間「一人学び」と「今日のキーワード」の場を設定し、学習の流れをつかませ、正しく読む力を身に付けさせる。 3 書く活動には全文視写したノートを使用する。 4 評価カードを活用する。 	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト平均86点 100点が12人、学級の7割が90点以上であった ・重要語句の書き込みを取り入れたワークシートの活用により、重要語句に着目した読みができるようになってきた。 ・フィールドワーク後の新聞作りにも重要語句を生かしたまとめ方が多く見られた 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストの結果から、問題文を最後まで正確に読まない傾向が見られた。 ・教師側の重要語句の捉え方が明確でないために要点のおさえが不十分な点があった。 ・ワークシートの決められたスペースによって、児童が自由に要点をまとめることができにくかった。 ・評価の吟味が必要である。 		

教材分析

「体を守る仕組み」	
言語事項	<p><キーワード> 病気、原因、微生物、水分、栄養分、安心、皮ふ、なみだ、せん毛、小さな白血球、大きな白血球、熱</p> <p><指示語> それ、その、この、そんな、そういう</p> <p><接続語> でも、また、ですから、まず、それだけでなく、おれから、しかも、これらとともに、このほかにも、しかし</p> <p><書き出し> まず、それから、これらとともに、このほかにも、そんなとき</p> <p><文末表現> ~してみましょう。~ですね。あるのです。からです。~してやりましょう。</p>
要点	<p>(1) 深ききゅうをしてみよう。</p> <p>(2) 病気の原因になる微生物も体の中に入ってくる。</p> <p>(3) わたしたちの体は、微生物によって、すみごちがよく、ふえやすい所で大変である。</p> <p>(4) でも、安心。自分で自分を守るための仕組みがある。</p> <p>(5) 皮ふは、微生物が体の中に入るのを防ぐ。それだけでなく、あかといっしょに微生物を落とす。</p> <p>(6) なみだは、微生物を流す。しかも、微生物を殺す働きもする。</p> <p>(7) せん毛は、微生物を外へおし出す役目をする。</p> <p>(8) このほかにも仕組みはあるが、微生物が入りこんでくることがある。</p> <p>(9) 体の中にも微生物と戦うすばらしい仕組みができています。</p> <p>(10) まず、小さな白血球が微生物を食べる。食べつくせないときには、大きな白血球が微生物をつかまえる。</p> <p>(11) 白血球が作られるとき、高い熱が出て、微生物の活動を弱める。</p> <p>(12) たえず自分を守るための仕組みが働き続けている。</p>
文章構成	<p>話題提示 (1)(2)(3)(4)</p> <p>説明1 (5)(6)(7)(8)</p> <p>説明2 (9)(10)(11)</p> <p>まとめ (12)</p>
筆者の思い	<p>わたしたちの体には、病気の原因となる微生物から、自分で自分を守るための仕組みがあり、自分を守るためにたえず働き続けている。</p>
発展	<p>自分の体について調べ、作品発表会をする。(「これが、わたしです。」)</p>

過程	時	学習活動（指導内容）	評 価 規 準 <評価方法>		
つ か む		「体を守る仕組み」	関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
	1	・全文を通読して、調べてみたいことなどを書き出す。	・体の仕組みに興味をもち進んで読んだり、調べてみたいことなどを見つけようとしている。 <発言・挙手>	・初めて知ったことやもっと知りたいこと、よく分からないことなどの初読の感想をもつ。 <発言・ノート>	・難語句を辞書などで進んで調べている。 <ノート>
	2	・単元全体を見通し、学習計画を立てる。 ・全文を通読して、三つのまとりに分ける。	・全文を進んで三つのまとりに分けようとしている。 <発言・観察>	・目的に応じ、中心となる語や文をとらえたり、内容をまとめたりしながら読んでいます。 <発言・観察>	・接続語や文末の表現に気を付けて文章全体の構成を考えている。 <観察・ノート>
深 め る	3	・第1・第2・第3・第4段落の要点を、キーワードをもとにまとめる。	・微生物の特徴について進んでまとめようとしている。 <観察・評価カード>	・微生物の特徴をキーワードを使ってまとめている。 <発言・ノート>	・接続語や指示語の働きに気を付けて、文と文とのつながりをとらえている <ノート>
	4 本時	・第5・第6・第7・第8段落の要点を、キーワードをもとにまとめる。	・体を守る外側の仕組みについて進んでまとめようとしている。 <観察・評価カード>	・体の外側の仕組みをキーワードを使ってまとめている。 <発言・ノート>	・接続語や指示語の働きに気を付けて、文と文とのつながりをとらえている <ノート>
	5	・第9・第10・第11段落の要点を、キーワードをもとにまとめる。	・体を守る内側の仕組みについて進んでまとめようとしている。 <観察・評価カード>	・体の内側の仕組みをキーワードを使ってまとめている。 <発言・ノート>	・「今度は」「同時に」といったつなぎ言葉に気を付けて、文と文とのつながりをとらえている。 <ノート>
	6	・第12段落の要点をまとめ、筆者の思いをとらえるとともに、自分の考えをもつ。	・次時の「これが、わたしです」の学習へ向けて進んで自分の考えをもつようとしている。 <観察・評価カード>	・体の仕組みのすばらしさについて、筆者の思いに自分の体験を重ねて読み、自分の考えをもつ。 <発言・ノート>	・段落相互の関係をとらえ文章全体の組み立てを理解している。 <ノート>

		「これが『わたし』です」	関心・意欲・態度	書くこと	言語事項
広	7	・「これが、わたしです」を読み、調べたい事柄を出し合い、学習計画を立てる。	・進んで学習計画を立てようとしている。 ＜観察・評価カード＞	・疑問点や興味をもったことについて書き出している。 ＜発言・ノート＞	・既習漢字を使って文章を書いている。 ＜ノート＞
	8 9	・資料をもとに調べ学習を行う。	・資料をもとに進んで調べ学習をしようとしている ＜観察・評価カード＞	・必要な事柄を収集したり、選択したりしている。 ＜観察・ノート＞	・国語辞典や漢字辞典を引いて意味をとらえている ＜観察・ノート＞
げ る	10 11	・調べたことをもとに、カードにまとめ、等身大の体の図を仕上げる。	・進んで等身大の図を作ろうとしている。 ＜観察・評価カード＞	・書こうとする中心を明確にしながら書いている。 ＜観察・ノート＞	・文と文との意味のつながりをとらえながらまとめている。 ＜ノート＞
	12 13	・作品発表会を開く。	・相手に分かりやすく発表しようとしている。 ・自分がまとめたことと比べながら聞いたり、質問したりしようとしている ＜観察・評価カード＞		・相手や場に応じた丁寧な言葉遣いで話している。 ＜発言・観察＞